

相談支援つうしん

＜第 37 号＞平成 29 年 6 月 14 日
湘南養護学校 支援連携部
相談支援係—教師編—

～対立行動の分化強化と代替行動の分化強化～

子どもの望ましくない行動をなくすときに、まず考えられる手立ては“分化強化”です。分化強化とは、望ましくない行動の代わりとなる行動を強化する、という意味です。分化強化の手立ては 4 つあります。代替行動分化強化、対立行動分化強化、低頻度行動分化強化、他行動分化強化の 4 つです。今回は、代替行動の分化強化と対立行動の分化強化の 2 つの手立てについてご紹介します。

☆ 対立行動の分化強化

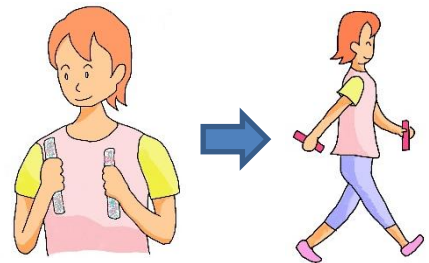
減らしたい行動に置き換わるような行動で、その行動とは同時にできない行動を強化します。例えば、離席を減らしたいときに、座ってしかできない行動、例えば塗り絵をすることを強化します。

☆ 代替行動の分化強化

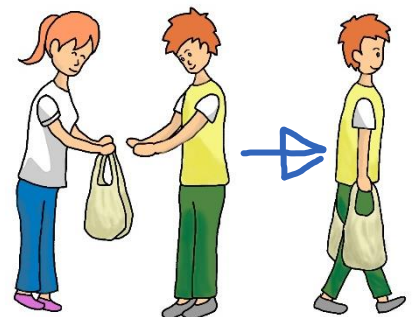
減らしたい行動に置き換わるような行動を強化（増やす）します。対立行動の分化強化との違いは、必ずしも同時にできない行動でなくてもよいところです。

～校内の風景～

それでは、校内における実例を見てみましょう。高等部の A さんは、教室移動をする際に地面に落ちているごみなどが気になってしまい、つい拾ってしまいます。いちいち拾っていると移動に時間がかかってしまうため、“スムーズに移動する”ことを増やすことを目的に、教室間の移動をするときに手にお気に入りのアクアバトンを持ってもらうようにしました。そうすると、ある程度意識が手に向くのでスムーズな移動ができるようになりました。この場合、手に物を持っていると拾うということとはできなくなるので、対立行動の分化強化と言えます。ただし、手がふさがることによってデメリットが生じることも考えられるので、慎重に様子を見ながら取り組んでいます。



続いて、中学部の B さんですが、B さんは手を使った感覚刺激遊びが好きで、移動中に壁をたたいたり突然かしわ手を打ったりするので、周りにいる人がびっくりしてしまうことがあります。特に朝の登校の時間には、昇降口付近は児童生徒が一斉に集まるので、大きな音を怖がってしまう子どももいるようでした。そこで、担任の先生が相談に挙げたところ、手に適度な感覚が入るように物を持たせてみてはどうか、というアイデアを試してみることにになりました。そして、スクールバスで登校したときに、水を入れたペットボトルの入った手提げ袋を渡して教室まで移動するようにしました。最初は嫌がるかと思われましたが、



意外とすんなり受け入れてくれたようで、毎朝昇降口から教室までの間、両手に手提げ袋を提げて歩いています。

また、中学部のCさんは手持ち無沙汰になるとついいたずらをしてしまいます。小学部の頃は給食を早く食べ終わってしまうと、次々といたずらをしていましたが、給食の後片づけをお願いしたところ、嬉々として取り組んでくれました。その結果、いたずらをするのが減った上に先生たちからも感謝されるようになりました。

これらの例は、対立行動ととるのか代替行動ととるのか難しいところがありますが、いずれにしても、**望ましくない行動→叱られる**というパターンは生じることなく、望ましくない行動を減らすことができます。



代替・対立行動の分化強化を行うときには以下のポイントがあります。手立てを導入したいとき、またはやってみただけど上手くいかないときにはこれらのポイントチェックしてみてください。

1. 置き換える(代替 or 対立)行動は、望ましくない行動と同じような機能を果たしていること

例えば、自傷や他害は伝達的な機能を持っていることがあります。そのときは、置き換える行動で注目や要求を満たせるようにします。

2. 置き換えた行動をすることによって、強化を得られること

Aさんのアクアバトンのように、本人にとって嬉しかったり魅力の感じられる工夫をします。同じ形でも、ラップの芯ではきっとAさんは持たなかったでしょう。

3. 置き換える行動に費やす労力は、元の行動と同じかそれ以下にすること

Cさんのいたずらは友達が食べている食器を触ったりわざと取り上げたりするレベルのもので、食事の後片づけと同じくらいの労力でした。

4. 新しい行動を新たに教えるより、すでにできる行動を使って置き換えること

1から置き換える行動を覚えることには労力が必要です。その労力を割くくらいなら、子どもは元の行動をしたがるでしょう。

5. 置き換える行動は最終的には自然な強化によって維持されるようにすること

行動を置き換えた当初は、その定着を図るために声をかけたり、上手に置き換えられるように手伝うことが必要なことがあります。ある程度の期間を事前に決めて、その間は集中的に練習に付き合いましょう。もったいないのは、上手くいかないからと言って、すぐに諦めてしまうことです。

また、分化強化の手立てを1つ導入するよりも、消去(強化しない)やタイムアウト、レスポンスコストなどの方法を併用することで、効果はより早く表れやすくなります。しかし、望ましくない行動を何とかしたいと思ったときには、まずは分化強化の手立てを検討してください。タイムアウトやレスポンスコストといった手立ては、その次に導入を検討するようにしてください。